

少年の日の思い出 **改題例**

1 199 ⑮ 『もう、結構。』と言った」とあるが、

(1) このように言ったとき、客はどのような様子だったか。次の文の□に入る言葉を、八字で抜き出しなさい。

・ちようにまつわる思い出が、□かのような様子。

・正解：不愉快でもある

(2) 客がこのように言ったのはなぜか。次の文の□ A・Bに入る言葉を、Aは四字、Bは五字で抜き出しなさい。

・思い出を自分で A しまい、今も B と感じているから。

・正解：A けがして

B 恥ずかしい

(3) 思い出を語りだした客の様子は、どのような情景描写によって表現されているか。その場の様子を印象づけている言葉を、漢字一字で抜き出しなさい。

・正解：闇

2 201 ③ 「あの熱情」とあるが、

(1) いつ頃の気持ちか。次の文の□に入る言葉を、十字以内で書きなさい。

・「僕」が十歳ぐらいで、□になった頃。

・例解：ちよう集めのとりこ

・別解：ちようを採るのが喜び

(2) どのような気持ちか。次の文の□に入る言葉を、十五字以内で書きなさい。

・ちようをつかまえるときの緊張や喜びと、ちようを□が入り交じった気持ち。

・例解：自分のものにしたいたい激しい欲望

・別解：どうしてもとらえたいという欲望

3 202 ④・⑫ 「初めのうち、僕は、自分の収集を喜んでたびたび仲間に見せた」ものの、しだいに「自分の妹たちだけに見せる習慣になった」のはなぜか。最も適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 珍しく評判になるような収集は仲間に隠しておきたいが、妹たちにはその価値を教えたかったから。

イ 仲間は設備を自慢したがるのであるべく距離をおこうと思うが、妹たちにはやさしくしたかったから。

ウ 自分の幼稚な設備が恥ずかしくて仲間に収集を見せられないが、妹たちには見せて自慢したかったから。

エ 本当は収集を仲間に早く見せびらかしたいが、批評される前に妹たちの反応を確かめたかったから。

・正解：ウ

4 203 ① 「非の打ちどころがないという悪徳をもっていた」隣の子供に対し、「僕」は矛盾する気持ちをもっていたが、具体的にどのような気持ちか。「〴〵気持ちと、…気持ち。」の形で、三十字以内で書きなさい。ただし、「模範少年」の語を使うこと。

・例解：模範少年だと認めて嘆賞する気持ちと、妬み、憎む気持ち。

・別解：欠点のない模範少年だからこそ嫌う気持ちと、羨ましい気持ち。